

製造業安全対策官民協議会 活動の取りまとめ会合

2023年3月10日

一般社団法人日本自動車工業会

1. 日本自動車工業会の概要

所在地： 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

設立： 1967年（昭和42年）4月3日

目的： 本会は、我が国の自動車工業の健全な発達を図り、もって経済の発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

会長： 豊田 章男

会員： いすゞ自動車(株)、カワサキモーターズ(株)、スズキ(株)、(株)S U B A R U、
ダイハツ工業(株)、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、日野自動車(株)、
本田技研工業(株)、マツダ(株)、三菱自動車工業(株)、三菱ふそうトラック・バス(株)、
ヤマハ発動機(株)、UDトラックス(株)

【計14社（従業員数計約30万人）】

2. 日本自動車工業会における安全衛生活動

第5回アドバイザーボード資料

項目	概要
安全衛生分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生全般に関する情報交換、検討、提言 ・会議は原則、会員企業の製造事業所にて現場視察を兼ねて開催。但し、2020年以降はコロナ禍のため、web会議を実施。今後、webを活用した現場視察について検討したい。 ・各社の災害事例や改善事例を定期的に共有し、会員相互のレベルアップを図る。
研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生分科会に2つの研究グループを設置。 ・労働安全衛生領域における各課題より、検討テーマを抽出・選定し、会社の垣根を越えて調査・研究活動を実施。(2022年はコロナの状況を注視し、会合はwebおよび対面で実施) ・研究成果を自動車産業安全衛生大会および、中央労働災害防止協会・全国産業安全衛生大会にて発表し共有を図る。
自動車産業安全衛生大会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本自動車工業会の研究会(上記)および日本自動車部品工業会の研究会の共同研究成果を発表。 ・自動車産業における安全衛生意識の向上と相互のレベルアップを図る事を目的に、年1回開催。(2022年はweb + 対面のハイブリッドで実施)
労働災害統計	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害統計および休業災害事例の共有により、自動車製造業における災害防止に活用する事を目的とする。 ・会員各社の毎月の労働災害の件数・労働損失日数・度数率等のデータおよび休業4日以上労働災害事例を共有。 ・年間の災害要素分析(労災の型・傷害箇所・原因・被災者の年齢・経験・雇用形態等)を行った上で情報を共有。

3. 神戸宣言 4つ経営理念に基づく活動

第5回アドバイザーボード資料

－コロナ禍においても神戸宣言の理念に則り、活動を継続－

項目1（経営層のリーダーシップ）、**項目2**（安全への投資の促進）、**項目3**（安全人材の育成や安全教育の拡充）に関しては、会員各社の経営方針に基づき、反映させる事とする。

項目4（重点的に取り組むべき課題を抽出と対策、業界内外への共有）については、安全衛生分科会において各企業が抱える問題点や困り事を調査・抽出し、皆で対応策を講じていく。

また、同業他社で構成する2つの研究グループにおいて、研究活動を継続し、その成果を自動車産業安全衛生大会および全国産業安全衛生大会に於いて発表、共有を行う事とする。

以上

4. 日本自動車工業会における今後の安全活動

1) 安全衛生分科会

神戸宣言：項目4（重点的に取り組むべき課題を抽出と対策、業界内外への共有）

2022年度

- ・労働安全衛生全般に関する情報交換、特別教育に関する規制改正要望を実施。
- ・会議は原則、会員企業の製造事業所にて現場視察を兼ねて開催。
但し、2020年以降はコロナ禍のため、web会議を実施。webを活用した現場視察について検討。
- ・各社の災害事例や改善事例を共有し、類似災害の防止および会員相互のレベルアップを図った。

今後の活動（予定）

- ・自動車産業の構造的な変化により、現行法で適合しない内容については要望活動を行う。
- ・リモート形式を含めた製造事業所における安全対策を実施・意見交換を行い、各社の安全対策に反映する。
- ・引き続き、各社の災害事例や改善事例を共有し、類似災害の防止および会員相互のレベルアップを図る。

4. 日本自動車工業会における今後の安全活動

2) 自動車産業安全衛生大会/全国産業安全衛生大会

神戸宣言：項目4（重点的に取り組むべき課題を抽出と対策、業界内外への共有）

2022年度

- ・安全衛生分科会に2つの研究グループを設置し、労働安全衛生領域における各課題より、検討テーマを抽出・選定し、会社の垣根を越えて調査・研究活動を実施。
- ・研究成果は、自動車産業安全衛生大会(日本自動車工業会、日本自動車部品工業会 共催)で発表。大会参加対象を各工業会の関連会社・協力会社に拡大し、自動車産業における安全衛生意識の向上と相互のレベルアップを図った。
- ・前年度の自動車産業安全衛生大会での発表内容は、中央労働災害防止協会・全国産業安全衛生大会@福岡での発表により、業界外への共有を行った。

今後の活動（予定）

- ・「自動車産業安全衛生大会の開催」および「全国産業安全衛生大会」への発表応募を継続。
- ・自動車産業安全衛生大会では、自動車産業の構造的な変化が進む中での安全対策の留意点等、未然防止の観点からの外部講師による講演も検討。
- ・また、引き続き関連会社・協力会社の参加を可能とし、アーカイブ動画も活用の上、より広く研究成果を共有することで、各社における安全意識の向上および災害防止に繋げる。

4. 日本自動車工業会における今後の安全活動

3) 労働災害統計

神戸宣言：項目4（重点的に取り組むべき課題を抽出と対策、業界内外への共有）

2022年度

- ・労働災害統計および休業災害等の事例共有により、自動車製造業における災害防止を目的に実施。
- ・会員各社の毎月の労働災害の件数・労働損失日数・度数率等のデータおよび休業4日以上の労働災害事例を共有。
- ・併せて年間の災害要素分析（労災の型・傷害箇所・原因・被災者の年齢・経験・雇用形態等）を行った上で情報を共有。

今後の活動（予定）

- ・2022年度同様の活動を継続。
- ・安全衛生分科会での実施する災害事例の共有と併せて、各社における災害防止に繋げる。

【参考】日本自動車工業会 災害度数率の推移

年（1～12月）	社数	度数率			強度率
		休業度数率	不休度数率	全度数率	
2010年	14	0.11	0.68	0.78	0.006
2011年	14	0.12	0.65	0.76	0.055
2012年	14	0.10	0.53	0.63	0.018
2013年	14	0.07	0.47	0.54	0.003
2014年	14	0.07	0.41	0.48	0.015
2015年	14	0.07	0.34	0.41	0.015
2016年	14	0.08	0.37	0.45	0.003
2017年	14	0.07	0.36	0.43	0.011
2018年	14	0.09	0.35	0.44	0.027
2019年	14	0.09	0.42	0.51	0.003
2020年	14	0.09	0.36	0.45	0.003
2021年	14	0.07	0.39	0.47	0.018
2022年	14	0.07	0.36	0.43	0.002